



よしまい

2023年 冬号



シギ、チドリが休む干潟の風景

目次

公園の風景

- ・ハマシギの旅 1
- ・食べられる? 1
- ・本物ど〜れだ? 1

木々と木の実と野鳥の話⑤ . . . 2

みんなのひろば

- 山口県のレース鳩 2

活動紹介

- ・ふれあいまつり♪ 3
- ・海岸清掃 3
- ・「ラムサール条約登録への道」

を冊子に . . . 3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 10509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail ashinokai.kirara@gmail.com

HP ashinokai.html.xdomain.jp

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）



公園の風景

= ハマシギの旅 =

水鳥たちのために干潟に打ち込んであるたくさんの杭の上に、シギやチドリの仲間が1羽ずつとまって休んでいる光景（表紙写真）は微笑ましく、観察公園の秋冬の風物詩となっています。風を避けてみな同じ方向を向いているのもご愛嬌ですね。



ハマシギ

例年、数百羽が越冬のため山口湾に飛来するハマシギですが、公園にも8月の終わりに1羽、2羽と姿を見せ、11月に入ると200羽以上が見られるようになりました。これから冬に向けもっと増えていくでしょう。ハマシギは体長20cmほどのコロンとした体形で、夏鳥のシロチドリと似ていますが、シギとチドリの違いはそのクチバシ。長めなのがシギ、短めなのがチドリと覚えておくと間違えません。

10月には脚にカラーリングを付けたハマシギが干潟で発見され、リングの色の組み合わせから、渡りの経路が特定されました。そのハマシギは繁殖地のアラスカあたりから東京を経由して飛来したことがわかったそうです。小さな体で遠い北の国から何千キロもの距離を飛んで来ることを思うと、あらためて「よくここまで」とねぎらいたい気持ちになります。きらら浜でゆっくり越冬して欲しいですね。



シロチドリ

= 食べられる? =

とんぼ池のほとりで白いキノコを見つけました。キノコは湿気の多い場所の土の中で菌の活動が活発になると生えてきますが、調べてみるとこれはどうやらオオシロカラカサタケのようです。このキノコは食用のカラカサタケに類似しているため、北米では最も誤食が多い毒キノコだそうです。



美味しそうに見えても毒キノコだと、食べたら腹痛、嘔吐などの中毒症状を起こすので気を付けましょう。

= 本物と～れだ? =



クロツラケージのそばにある人工島にクロツラヘラサギが3羽います。このうち2羽はデコイ。さあ、どれが本物でしょう!? 正解は・・・・・・・・・・一番手前でした～。全く見分けがつかせんね(^^)

世界で約6000羽しかいない絶滅危惧種のクロツラヘラサギは、朝鮮半島などで繁殖し、東南アジアや日本にやって来ます。

近年の開発や環境汚染はクロツラヘラサギの繁殖地の減少にも影響しています。クロツラヘラサギはラムサール条約登録を目指す山口湾のシンボル鳥。山口湾には毎年30数羽が飛来しますが、これからも山口湾を守り、クロツラヘラサギがもっともって増えてくれることを願っています。

木々と木の実と野鳥の話 ⑤



センダンとナンキンハゼの実が冬空に映えて綺麗ですね。園内に植えられている木々の中では数の少ない落葉広葉樹のセンダンの実は、人や動物には有毒とされていますが、ヒヨドリには御馳走のようで群がって食べに来ます。



一方、紅葉の美しいナンキンハゼも同じく落葉広葉樹で、三つに分かれた白い実の中に黒茶色の種が一つずつ入っています。こちらはキジバトの大好物。シジュウカラやメジロなど、小型の鳥も外側の白い口物質の部分を削り取って食べるそうですが、ナンキンハゼにとって大歓迎なのは、全部を丸飲みにするカラス、ヒヨドリ、ムクドリなどの中型の鳥たち。消化されない種が糞と共に排出され種子散布に一役買うからです。キジバトは丸ごと食べて種まで消化してしまうので「招かれざる客」



のはずですが、どんな客が来ても木は文句も言わずその実を提供します。



みんなのひろば😊

山口県のレース鳩

日本にいる7種類のハトの内、ドバトを除く6種類は野鳥です。ドバトはそもそも寺院のお堂に住んでいたから「堂鳩」と呼ばれていたのがその名の由来らしく、そのドバトに近いのが優秀な帰巢本能がある伝書鳩。日本には明治時代に軍隊が通信用としてヨーロッパから輸入したのが始まりだそうです。

1963年、第18回国体が山口県に決まりました。当時は開会式で鳩を飛ばすことが恒例で、高校生だった私たちハト仲間に、数千羽の鳩を集めるよう県庁から依頼がありました。大奔走して成功させた結果、県から助成金が出て山口県にもやっと「日本伝書鳩協会・山口県支部」ができたのです。その後、進学や就職で実家を離れ、鳩とは直接関われなくな



っていましたが、20年程前、早期退職し秋穂に場所を求めて鳩レースを再開し大いに楽しみました。今はもう鳩の飼育もやめたので葦の会で活動しています。きらら浜自然観察公園では、キジバトは常に観られるけどアオバトはどうか？

ところで秋穂にはハヤブサやオオタカが棲んでおり、頻りに鳩たちが襲われ多数の犠牲も出ました。写真はわが鳩舎の入口に来た至近距離のオオタカをフィルムカメラで撮影したものです。

(M.F)



活動紹介

= ふれあいまつり =



ピカピカの秋日和になった 10 月 29 日（日）、葦の会主催の「ふれあいまつり」を行いました。巣箱作り、お餅つきの他、クイズラリー、ゲーム、ショートプログラムチームが練習を重ねてきたパネルシアター「夢みるカブ子ちゃん」などを楽しんでもらいました。



<俳句教室最多選句>

= 「ラムサール登録への道」を冊子に =

ラムサール条約って、聞いたことがあるけどよく分からない、という声をよく聞きます。葦の会では機関紙「よしきり」2022.1 月～2023.1 月で特集した「ラムサール登録への道」をまとめ小冊子にしました。ビジターセンター内に置いてありますので興味のある方、どうぞお持ち帰り下さい。



= 山口湾 海岸清掃 =

県の自然保護課と公園運営の野鳥やまぐち主催、5 企業 1 団体の協力のもと行われた、年一回の山口湾の海岸清掃は今年で 4 回目。11 月 11 日（土）、干潮となる 13 時、69人が公園に集合しました。周防大橋から深溝港までの佐山側の海岸線に打ち寄せられていたゴミの収集量は今回 300 キロとなりました。人間の手では回収不可能なマイクロプラスチックが生態系に及ぼす影響をしばし考える活動でした。

| | | |
|-----------------|--------------|--------------|
| 蜻蛉来るへつぱーんのTシャツに | 来てはまた帽子拝借赤蜻蛉 | 旅人の来ぬを待ちをり藤袴 |
| 道子 | 恵子 | 鳩舎 |

9月

10月

<編集後記>

かつて体感したことのない酷暑の夏が過ぎ、時は秋から冬へと移ろっていきます。この先の地球環境が案じられますが、観察公園では今、シギに続いてカモの飛来が相次いでいます。種類も豊富になり、賑やかになった公園にぜひお運び下さい。

(Tasha)